

児童サービス

植松貞夫

図書館における 児童サービスの目的

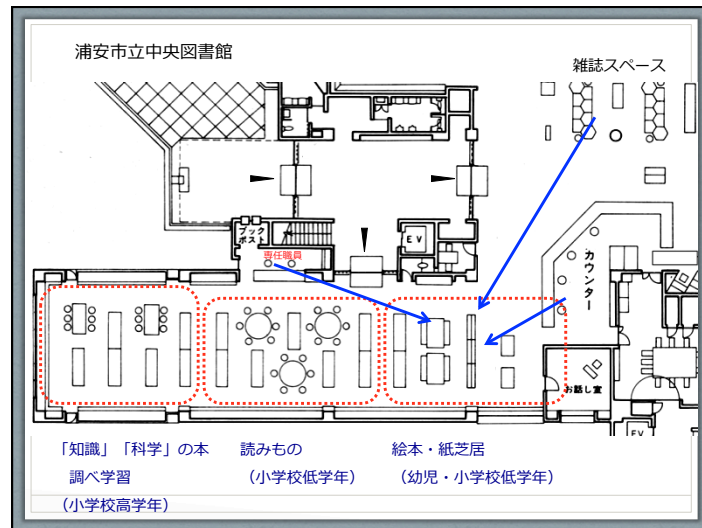
- 子どもと保護者を始めとするとりまく親たちを本の世界に結びつけ、子どもに読書の楽しさと喜びを体験させ、読書習慣を身に付けさせることを通して、子どもの健全な発育を支援することが最大の目的
- 人格形成期における読書の効果は多くの識者の語るところ
- 子どもの学習権の保障、情報へのアクセス権の保障
- 公共性を身に付ける場所
- 生涯を通じて役立つ 情報探索・入手法の修得

ゾーン区分

- 児童といっても0歳児から12歳以上まで
- 各年齢層の体格と興味対象は大きく異なる
- ゾーン区分を明確に
 - 乳幼児：紙芝居、絵本
 - 小学校低学年：読みもの
 - 高学年：知識・科学の本
- ゾーンごとに資料の形態と利用者の体格に適した家具

平均身長 (単位：cm)

年齢	男子	女子	年齢	男子	女子
1	75.0	73.4	8	125.3	124.6
3	85.4	92.2	10	136.4	136.9
4	93.3	99.5	12	149.1	149.6
5	106.7	106.2	15	167.1	157.1
6	113.3	112.7	17	170.8	158.0





絵本の書架

- 絵本は同じシリーズであっても形態がまちまち
- 表紙に全ての情報がある
- 表紙を見ながら探す
- フェース・アウト方式が合理的←収納効率











親子同伴での来館

- 親子読書スペース
- 母親が圧倒的に多いが、父親も





お話し室・スペース

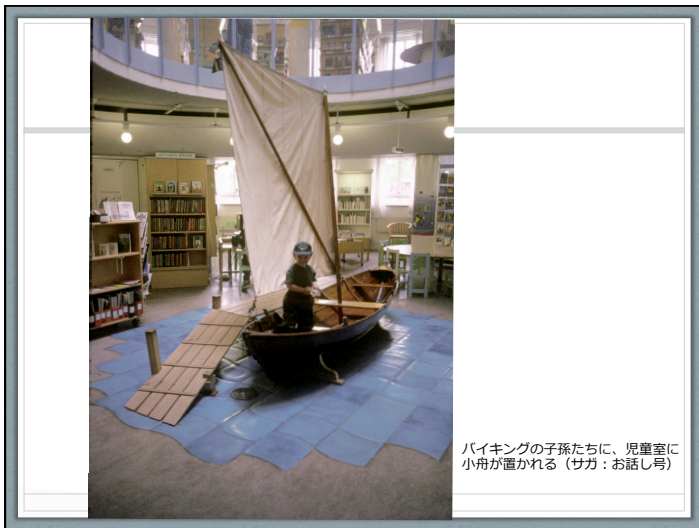
- ・ 室とするかスペースとするかは図書館の判断
- ・ 館内おける位置
- ・ 付属：くつ脱ぎ、人形劇枠などの収納







ジュータンスペースとお話し室



バイキングの子孫たちに、児童室に小舟が置かれる（サガ：お話し号）



人形劇場 お話し室（ロスアンゼルス市立中央）

児童書研究室

- 児童書研究の成人の閲覧室
- 児童スペースに隣接させる必要はないが児童スペースから絵本等を取り出すこともあるので隣接が一般的

